

1.2 地形・地質の状況

土石流は活火山である恵庭岳と支笏カルデラ壁の7筋の沢で発生し、道路との交差点で被害を与えた(図-1.2.1, 写真-1.2.1)。そのうち、丸駒橋と湖水橋を被災させたポロピナイ沢本流は恵庭岳山頂の爆裂火口を源頭部として支笏湖まで至る約3kmの沢で、普段は水が流れていない涸れ沢である。恵庭岳(標高1,319m)は支笏湖カルデラの北西部に形成された活火山で、約1万7千年前に最初の噴火があった。最新のマグマ噴火は約2千年前で、主に安山岩や石英安山岩から構成されている(図-1.2.2)。17~18世紀に山頂で発生した水蒸気爆発により爆裂火口が形成され山頂頭部が崩壊し、その崩壊物が「岩屑なだれ」としてポロピナイ沢に流れ下り、支笏湖畔に扇状地を形成した¹⁾(写真-1.2.1)。それゆえに、ポロピナイ沢には従来から大量の崩壊物が堆積し、1996年9月にも土石流が発生し湖水橋を桁下まで埋めた²⁾。

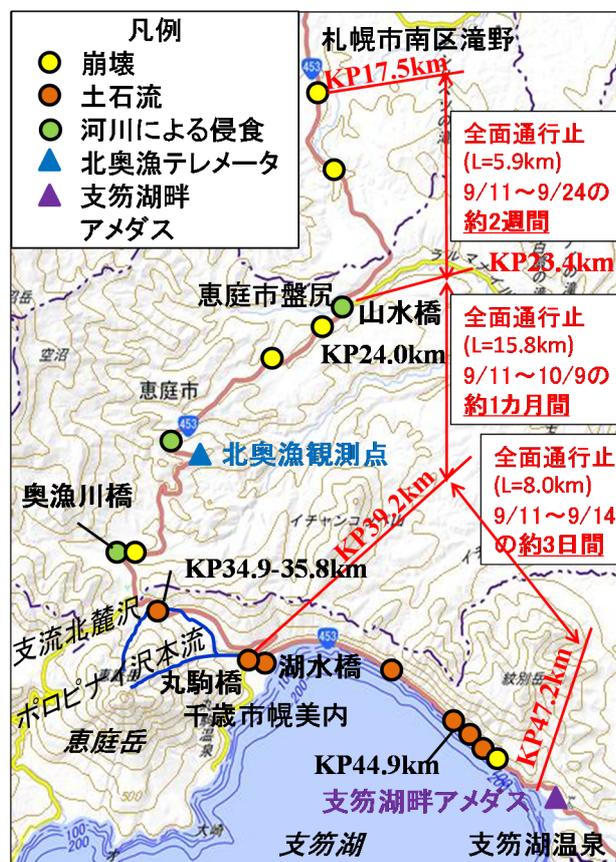


図-1.2.1 国道453号の土砂災害位置図



写真- 1.2.1 恵庭岳のポロピナイ沢本流における土石流 (9月23日撮影)

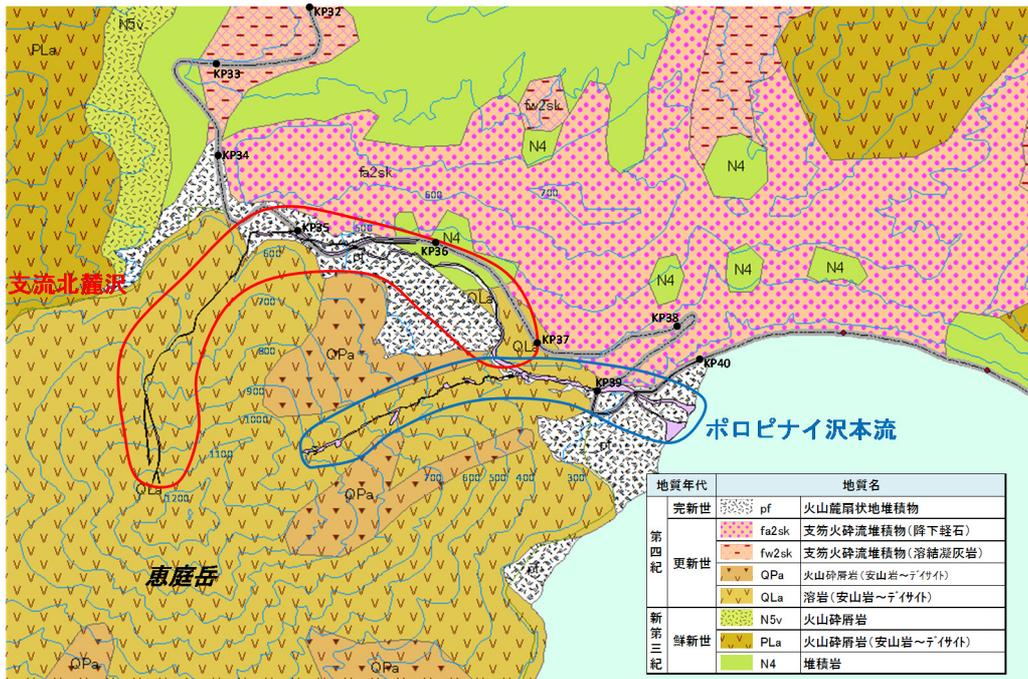


図- 1.2.2 恵庭岳周辺の地質図³⁾